シリーズ華夷弁別連動企画

はぎあぶ暮らし Vol.8

身近に緑をおいて心豊かに

有限会社 廣兼造園　代表取締役　廣兼　基（はじめ）さん

廣兼　基さん

1986年萩市椿東生まれ。萩工業高、東京農業大学造園科学科を卒業後、家業である㈲廣兼造園に入社。菊屋家住宅、熊谷美術館・熊谷家住宅の日本庭園を管理するかたわら、オーストリアやドイツ、チェコなど海外の日本庭園整備にも派遣技術者として参加している。一級造園施工管理技士、一般造園技能士、樹木医補。

有限会社 廣兼造園

造園設計・施工・管理
住　　所：萩市大字椿東2668
電　　話：0838-22-1455

城下町・萩には江戸時代からの日本庭園が余多残っている。こうした庭の維持を担っているのが造園技師だ。萩を代表する歴史建築の一つである菊屋家住宅の日本庭園を管理している廣兼造園の若き社長・廣兼基さんは、伝統を守ることの重圧に耐えながら、未来にも目を向けて歩を進めている。

100年続く廣兼造園の4代目社長になって2年余り。菊屋家や熊谷家の庭園管理を一手に担っていることから、「うちみたいな普通の家には来てもらえないんでしょう」といわれることも少なくない。また昨今は新築の際、庭など外構にはお金をかけない人も多いが「緑があると心が安らぐ。1本だけでいいので木を植えてほしい。施工や管理のご依頼はどなたでも歓迎」という。

菊屋家の庭は松だけでも30本あまり。剪定に1カ月以上かかる。「1本1本、性格が違うし健康状態も常に変わる。木の声を聞き、その時に最適な剪定をする」ことを信条にしている。

幼稚園の園庭整備では、実がなる木を植え、生態系の縮図であるビオトープを作ることで園児の五感を刺激する環境を整えた。木と同じく、人にも優しいまなざしを向ける。

社長就任後、移住者を次々に雇用。パート採用も積極的だ。「ライフスタイルに合わせた職業選択が普通になりつつあるが、庭師は甘い仕事ではない。この仕事が〝好き〟かどうかが最も重要」と考えるからだ。

天候に左右される業種。従業員の収入安定のために新規事業も模索する。一方で、すべての現場に必ず顔を出すことを自らに課す職人気質も。管理する庭を未来に残すためには次世代の育成が気がかりだが、「小6の息子が庭師になるというのを聞いて、自分と重なった。実現できる環境を頑張って確保しなければ」と笑う。

シリーズ **華夷弁別**

— 若者たちの挑戦 —

華夷弁別とは中国から来た言葉で、吉田松陰は弟子たちに「その地でがんばればそこが中心となる」と教えた。番組では、萩阿武地域で活躍している人に密着取材。

放送時間：月曜～日曜　午後7時～ほか

0歳から入場可能なコンサート

絵本deクラシック

0歳から楽しめる新しいコンサート「絵本deクラシック」萩公演が3月20日（金・祝）午前10時半から萩市民館大ホールで開かれる。同実行委員会と萩市、萩市教育委員会の主催。萩市文化協会後援。

「ブレーメンの音楽隊」の絵本の朗読とともに金管楽器の演奏を届けるコンサート。大きなスクリーンに映し出される映像を見ながら物語の世界と音楽に浸れる形式なので親子で楽しむことができる。

演奏するのは、東京芸術大学の同期生で結成し、全国でのコンサートツアーのほかテレビ番組にも出演して活躍中の「トラベル・ブラス・クインテット」。2013年に始めた「絵本deクラシック」の公演は0歳から入場できることやこれまでにない趣向を凝らした内容が話題となった。

入場料は小学生300円、中学生以上2200円、未就学児は無料。問い合わせは萩市民館0838・25・3511へ。

ひらたまさひろ氏 爆笑!!絵本ライブ

絵本作家・ひらたまさひろ氏の「爆笑!!絵本ライブ」が、3月1日（日）午後1時半から萩図書館で開かれる。

ひらた氏は画家との共作で「おかん」「ぱんつくったよ」など100冊以上を刊行。ことばあそびを取り入れた読み聞かせを全国で開催している。

参加費は無料だが申し込みが必要。定員30人。問い合わせは同館（☎0838・25・6355）へ。